

## 「藤樹紙芝居」を使った道徳性を養う指導展開プラン(その②)

### 1 主題 (子どもに身につけさせたい内容)

「誠実に明るいい心で生活すること」

道徳的価値：高学年 正直 誠実

### 2 紙芝居題

藤樹紙芝居⑦ <馬方又左衛門>

### 3 主題に迫る

高学年になると、一つひとつの行動に責任ある態度が要求されるようになる。そのため、あやまちを犯したとき、「みんなもやってる。」と言って、他人のせいにしたり、自分の責任を少しでも軽くしようとしたり、罪を逃れようとしたりする傾向にある。また、努力を惜しんで宿題などをまる写ししたり、忘れ物をしたとき、うそをついてごまかしたりすることもある。

本紙芝居は、馬方が、加賀の飛脚が忘れた二百両もの大金が入った財布を、疲れを癒すこともなく飛脚がいる遠い榎宿まで届けに行き、さらに飛脚からの礼金すら受け取ろうとしなかった。この題材をとおしてこの正直で誠実な行為に感銘させるとともに、人間として利欲にかられることなく正直で誠実に生きることの尊さを理解させ、常にそのように行動しようとする心情を育てたい。

### 4 紙芝居の概要

ある日、川原市に住む又左衛門が、加賀の飛脚を馬に乗せ、川原市から榎の宿へ送り届けた。家に帰り、馬の背中から鞍をおろしたところ、飛脚のものと思われる二百両も入った袋が落ちてきた。又左衛門は飛脚が「大変お困りのこと」だと思い、急いでその袋を持って走り、飛脚の居る宿へ向かった。宿では、飛脚が大金を無くしたことに気づき、途方に暮れていた。その時、又左衛門が宿に着いた。「この袋は、飛脚さんのものや。きっと困っておられるだろう」と思い、休まずやってきたことを飛脚に告げ、飛脚に手渡した。「大金を無くし切腹をしなければならない。」とまで思っていた飛脚は、涙をポロポロ流し心から喜んだ。「是非お礼がしたい。」と申し出た飛脚に対し、又左衛門は「当たり前のことをしていただけ」と殆どを受け取らずに家に帰ってきた。

### 5 指導過程

展開のしかた	問いかけ	留意点
<p><b>1. 自分たちの経験を話し合う。</b></p> <p>○今までに困っている人を助けてあげた経験はありますか。また、その時は、どんな気持ちでしたか。</p>		
<p><b>2. 紙芝居の上演を視聴して話し合う。</b></p> <p>○財布を見つけた時、又左衛門はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>○財布を無くしてしまった飛脚はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○又左衛門が財布を届けに来てくれた時、飛脚はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○又左衛門は、どうしてお礼をもらわなかったのでしょうか。</p>		<p>・欲を出さず飛脚に返しに行こうとした正直で誠実な又左衛門の心情を考えさせる。</p> <p>・財布を無くし、困り果てていた飛脚の気持ちを考えさせる。</p> <p>・又左衛門のとった行為への感謝の気持ちを少し時間をとって考えさせる。</p> <p>・欲のない、正直で誠実な人とは、どんな人をいうのか考えさせる。</p>
<p><b>3. 正直・誠実について新しく気づいたことを話し合う。</b></p> <p>○正直で誠実な人とはどんな人でしょう。</p>		